

# ～ 脂質異常症について ～



血液に含まれる脂肪分のことを脂質と言い、体の健康を保つのに必要な成分の1つです。この脂質が一定の基準値を越えていると脂質異常症と診断され、食べ過ぎ、お酒の飲みすぎ、肥満、運動不足、喫煙、ストレスなどが発症に関係していると言われています。脂質異常症の状態が長く続くと動脈硬化が進み、脳や心臓、腎臓などにさまざまな合併症を引き起こしますので注意が必要です。また自覚症状が殆んどありませんので検診などで気付くことが多いようです。

「脂質異常症の疑いがあります」と指摘された際には早めに医療機関を受診することや暮らしの中にバランスのよい食事、適度な運動を取り入れるなど生活習慣全般の改善をおすすめ致します。下の表は脂質異常症の診断基準です。ご自身やご家族の健康管理にお役立てください。

## 脂質異常症の検査項目と診断基準(空腹時)

高LDLコレステロール血症  
(LDL-C)

140mg/dl 以上

高トリグリセライド血症  
(中性脂肪 TG)

150mg/dl 以上

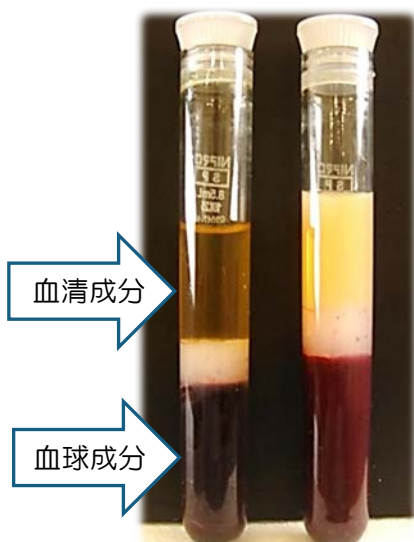
低HDLコレステロール血症  
(HDL-C)

40mg/dl 未満

LDLコレステロール、HDLコレステロール、中性脂肪の内どれか1つ以上がこれらの診断基準にあてはまると脂質異常症と判定されます。

日本動脈硬化学会「動脈硬化性疾患予防ガイドライン2012年版」より引用

健常者      高度の脂質異常症



左の写真は空腹時に採血した血液を遠心・分離したものです。上層が血清成分(タンパク質、脂肪など) 下層が血球成分(赤血球・白血球など)です。検査は血清成分を使用します。健常者の血清は黄色調・透明(左)ですが、高度の脂質異常症の方は白濁を認めることがあります(右)。

